

(2) 生徒の「いいところ」を見つけて伸ばす開発的生徒指導

(ア) 生徒指導の3機能を生かした取り組み

「中学校学習指導要領解説 総則編」3生徒指導の充実（第1章第4の2（3））で次のように述べている。【一部抜粋】

生徒指導は、学校の教育目標を達成するために重要な機能の一つであり、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。すなわち、生徒指導は、すべての生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになるようにすることを目指すものであり、単なる生徒の問題行動への対応という消極的な面だけにとどまるものではない。

学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、また、両者は相互に深くかかわっている。各学校においては、生徒指導が、一人一人の生徒の健全な成長を促し、生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である。

生徒指導を進めていくうえで、その基盤となるのは生徒一人一人についての生徒理解の深化を図ることである。（中略）

生徒理解の深化とともに、教師と生徒との信頼関係を築くことも生徒指導を進める基盤である。教師と生徒の信頼関係は、日ごろの人間的な触れ合いと生徒と共に歩む教師の姿勢、授業等における生徒の充実感・成就感を生み出す指導、生徒の特性や状況に応じた的確な指導と不正や反社会的行動に対する毅然とした教師の態度などを通じて形成されていくものである。その信頼関係をもとに、生徒の自己開示も高まり、教師の生徒理解も一層深まっていくのである。

また、学校教育は、集団での活動や生活を基本とするものであり、学級や学校での生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深くかかわっている。生徒一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係をはぐくみ、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていける望ましい集団の実現は極めて重要である。すなわち、自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手のよさを見つけようと努める集団、互いに協力し合い、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする集団、言い換えれば、好ましい人間関係を基礎に豊かな集団生活が営まれる学級や学校の教育的環境を形成することは、生徒指導の充実の基盤であり、かつ生徒指導の重要な目標の一つでもある。

これらのことを鑑み、本校では2年前より下記に示す「生徒指導の3機能」を生かした授業や学級活動・生徒会活動また、教育相談等を実践してきた。

＝生徒指導の3機能＝

①児童生徒に「自己決定」の場を与えること

自他のそれぞれの社会的な自己実現を図ることを目指して自己の行動を決定すること

②児童生徒に「自己存在感」を与えること

教師が児童生徒一人一人をかけがえのない存在としてとらえ、一人一人の存在を大切に思い指導すること

③教師と児童生徒の間に、人間的な触れ合いを通して「共感的な理解」を図ること

相手の立場に立って物事を考えたり心情を思いやったりすること。相手の感情に近づき、共に感じ、

(イ) 生徒の「いいところ」を見つけて伸ばす開発的生徒指導の取り組み

○ 最近の子どもたちの傾向

今、子供を取りまく環境は複雑極まりない状況にある。本校もその例外ではなく、毎年、様々な悩みや複雑な人間関係のもつれを引きずって本校に入学してくる。その子どもたちの最近の傾向としては、自己中心的でコミュニケーションがうまくとれなかったり、自分の感情をコントロールできなかったりしてトラブルを起こす。また、規範意識が低く、少しのことを我慢できなかったり、失敗したり、問題行動を起こしても素直に反省できない子どもが増えている。家庭の教育力も低下し、保護者対応も年々難しくなっている。

また、地域とのつながりや、核家族化、少子化による希薄な人間関係も問題になっているとともに最近では本校でも携帯電話の普及によるインターネット、メール、ブログなどのトラブルが増加傾向にある。全国的にいじめや暴力も大幅に増加している。

このように多くの問題が山積した中で、広島市から昨年度出された予防的生徒指導の推進を図って

きたが十分とはいえない。そこで今年度より開発的生徒指導を軸にした取り組みを始めた。本校のとらえる開発的生徒指導とは、次のような意味である。

生徒一人ひとりに応じた支援やかかわりを生徒指導の3機能を生かしながらあらゆる場面で組織的に
行い、生徒の良いところを認めて伸ばし、健全な発達を支えていくこと。

○ 「ICTいいとこ見つけ！」カード
生徒指導の3機能のうち「自己存在感」を感じ、「自己肯定感」を高めるためにも「先生はちゃんと見てくれている」「見捨てず関わってくれる」「がんばった時にしっかりほめてくれる」「不安なときに寄り添ってくれる」など生徒一人ひとりの存在を大切にすることが大事である。そこで、昨年度から本校で取り組んだのが「ICTいいとこ見つけ！」カードである。

【図1】のように表計算ソフトに日常生活や部活動などで生徒のいいところを見つけては打ち込んでいくと【図2】のようなカードに集約される。昨年度末の懇談会や、夏休み前の懇談会で配布したカードである。これを全教師で取り組み、7月・12月の懇談会と年度末の計3回生徒に配布する。この取り組みは生徒の「自己存在感」や「自己有用感」を高めることにもつながり、本年度行われた学校評価（中間）で「自分はやればできる」「先生は、学校生活のいろいろな場面で励ましたり褒めたりしてくれると思う」という質問に対して肯定的な意見が80%近くまで達し、いずれも昨年度より向上した。

また、カードを受け取った生徒から満面の笑みで「先生ありがとう」と言われることや、懇談会でカードを手にした保護者が「ああ先生は我が子のこんなところも見てくれているんだ」と驚く姿に効果を実感した。自分を見てくれる、認めてくれる先生を生徒も間違いなく認める。そこには信頼が生まれるからその教師にぶっきらぼうな声かけをされたり、小突かれたりしてもニコニコとうれしそうに話が聞ける。また、きつく叱った後でもそう簡単に人間関係は崩れない。

また、開発的生徒指導とは、生徒の「心」を開く生徒指導でもあり、1回叱るためにあらゆる場面で9回話しておかなければならない。掃除を手伝いながら声をかけるなど、わずかな時間でも生徒と接する機会を大切にして、生徒に「先生は見ているんだ」と感じてもらうことを心がける。できる教師は「声かけ名人」「スキンシップ名人」でもある。（ただし、タイミングよく内容があること→そのためには日頃の観察が大事である！）それはこの取り組みを通して教師に身につく。

開発的生徒指導を推進していくためには、対処的生徒指導や予防的生徒指導とも深くつながっていて、問題行動が起こったときは、当然、対処的生徒指導が必要である。殆どの教師がその問題行動の原因を突き詰め、反省を促し、謝罪の会をして指導を終えるが、開発的生徒指導では、それは終わりではなく、その生徒とつながるスタート（チャンス）である。

図1

五田市南中学校 生徒のいいとこ見つけ!											
※ 文字数は54文字以内をお願いします。 ※ 月日は、7/8のように打てば7月8日と表示されます。											
教師名	月日	いいとこ見つけ!	教師名	月日	いいとこ見つけ!	教師名	月日	いいとこ見つけ!	教師名	月日	いいとこ見つけ!
藤井	7月13日	...	川上	7月
八香	7月13日	...	柴田	7月14日
福田	6月	...	柴田	7月8日
福田	6月	...	八香	7月13日
柴田	6月30日	...	中村	7月

図2 いいとこ見つけカード
1年 2組 17番 さん

生活委員として率先して動いてくれていますね。君の行動力はクラスの大きな力になっています。ありがとうございます。
6月 川口

採寸の授業で、進んで前に出て計測のモデルをしてくれたね。各部位の測り方が、みんなにわかりやすく伝わったよ。
7月1日(金) 宮口

日に日に成長していくあなた、正しい言葉遣いや、返事がきちんとできるように、今では皆の手本となっています。いい男になろうぜ！
7月14日(木) 金村

グロスタチャーに学ぶ会では、司会という大役に立候補し、自分の力を発揮してくれました。よくやりました！
7月13日(水) 川上

